

## 解 答

- 問1 ① 執権  
② 元禄  
③ 島原

問2 (う)

問3 平泉 い 俱利伽羅峠 お 屋島 け

問4 (え)

問5 かわら版や古文書から、建物の倒壊のようすや被害の程度などを知ることができるから。

問6 町の復旧のため、大工など職人の仕事が増えて、職人の収入が増加しているようす。

問7 震災の混乱の中で、朝鮮の人々が暴動を起こすという根拠のないわざが流れ、これを住民や一部の軍・警察の人が信じたから。

問8 国民に動搖を与えず、戦争のことだけを考えさせるようにするため。

問9 日本語をよく理解できない外国人が、適切な情報を得られなかった。

問10 地域社会と切り離されたため、生活に支障をきたす高齢者や、なかには周囲に気付かれないまま亡くなった高齢者がいたという問題。

問11 災害対策を行う中心的な機関のもとで、国や地方公共団体などの役割を明らかにする。地域社会では、日頃から住民間の交流を図る。

問12 再び大地震が起きるのではないかという不安から観光客が減ったため、観光業の損失が続いた。

問13 阪神・淡路大震災が発生するまでは、日本の高速道路はどんな強い地震でも耐えることができると信じられていた。しかし実際には、阪神高速道路の一部が倒れたり、支柱にひびが入ったりした。科学や技術の力で自然を支配しようとしても、不可能であることがわかった。このため、地震の力を上回る頑丈な高速道路をつくるのではなく、地震の力を吸収・分散させるような構造を開発したい。このように、自然の力に逆らわない態度で科学や技術に接し、経済性よりも安全性を重視した社会にしていきたいと思う。

写真  
悠工房